

## 1. [子育て支援について]

加茂町会場（ラメール）

Q6：加茂町では、幼、小、中の子どもたちのために教育振興会があり、町内の各家庭から1,500円ずつ、子どもが充実した学校生活を送るために集めている。しかし、その用途は残念ながら市が負担すべき基本的な学校施設の維持管理に使われている現状がある。幼、小、中の施設の維持管理は市の方で十分な予算をつけて頂き、教育振興会費はその上で充実した学校生活を送れるよう例えばクラブ活動でのユニフォーム購入や、図書購入などプラスαに使えるようにして頂きたいと思う。

A：加茂町では、合併以前から町を挙げて学校教育を教育振興会の形でサポートして頂いていることは承知している。例えばプラスバンドの楽器購入や部活のユニフォーム購入など市として支援しづらいものに教育振興会費が使われていると認識していた。ご指摘のとおり施設の維持管理や備品等については当然市の責任においてやっていくべきである。仮にそのような使われ方をしているのであれば教育振興会の事務局とご相談しながら、良い方向にしていきたいと思う。（教育長）

Q7：私は子どもが3人おり、地元の加茂子育て支援センターをよく利用している。現在は工事中のため、かもてらす喫茶店跡で運営されており、利用者が増えつつあるようだが、今までは利用者が非常に少なかった。職員一人に対して利用者が3日間で0人だったりするのは、予算面でももったいないと思うし、民間ではありえないことだと思う。最近木次の子育て支援センターを利用させていただくのだが、そこはもともと合併前から手厚く予算がついていたようだが、サービスの面でも断トツに優れていると思う。加茂の子育て支援センターも、木次の子育て支援センターのような居心地のよい場所であったり、質の高いサービスが受けられるのであれば多くのお母さん方は加茂の支援センターでも子どもを遊ばせたいと思うし、何回でも行きたいと思うはずだ。でもそう思わない、そうしないのは、やはりそこが魅力的な場所ではないからではないだろうか。合併したのだから、この大きな格差をなくしてほしい。地元の支援センターには全く行かないけれど、木次町の支援センターにはよく行くという話をお母さん方から聞いたことがある。そうすると地元であるにも関わらず、就学前に子ども同士あるいは親同士のつながりができない。この状況は非常にもったいないことだと思うので格差を解消してそれぞれの支援センターを利用しやすくしていただきたい。

A：現在加茂子育て支援センターは建て替え工事のため、かもてらすで一時的に運営をしているが、来年の4月からは放課後児童クラブと一緒に新しい施設で運営をスタートする。それに向けて木次に負けないよう体制を整えていきたいと思う。今後とも貴重なご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。（子育て支援課長）

Q8：子育て支援について説明があり、充実した印象を持ったが、いかんせん支援を受ける子どもが少ない。私の自治会では、小学生が1人、中学生が1人。小学校は1学年60人ぐらい。どうやって子どもを増やすか市として対策を考えているのか。

A：子育てしやすい環境を整える施策を行政として行わなくてはと考えると、他自治体に負けない対応をしている。そういった施策だけでなく働く場所の確保やUターン、Iターンを促進する定住施策など総合的な施策となつて初めて生きてくるので、それぞれを担当する部署が一緒になって連携して進めていく。（子育て支援課長）

A：まずは、雲南市が住みやすい町だという意識を市民の皆様はもとより、周りの皆様からも思ってもらえるようなまちをつかっていき、定住人口の増あるいは右肩下がりに歯止めをかけていこうにしたいと考えている。そのためには企業誘致により雇用の場をつくる、あるいは隣接する松江、出雲に勤めるにしても住むのは、雲南市あるいは加茂町というようなまちづくりをすることが必要だと考える。子どもがたくさん生まれて

も子育てがしやすいという施策も併せて展開しなくてはいけない。全国や雲南市の調査などにおいても子育て費用の軽減は多くの皆さんが望んでいるため、そういったことに焦点をあてて、医療費の無料化や保育料の軽減といった施策を展開している。また、子育ては家庭だけでは大変なので学校と家庭と地域と行政が一体となって、地域が子どもを育てることがしっかりと根付く必要がある。このように様々な施策が総合的に展開されるというのが必要と考えている。(市長)

**Q (再質問) :** 先日子どもが4~5人いる若い人と話をしたが、他自治体が行っているような3人目から表彰したり、お祝い金がでるなどといった雲南市の制度はないのか。

A : 雲南市にはそのような制度は無いものの、ただ産んで下さいというだけでなく、若い人たちに来て下さいという制度がある。それは定住施策ということになるが、子どもさんを連れた若い世代の方に、IターンやUターンしていただいている。現在、定住推進員を配置し、空き家の紹介を行っている。空家の物件が少なくなってきたので、地元からも紹介をしていただき更なる進展を図りたいと思う。(政策企画部次長)

A : 先ほど例えば表彰といったお話もあったがそういった制度は雲南市にはない。しかし今日の資料のP5にあるように兄弟が同時に保育所・幼稚園に複数入った場合は保育料を2人目以降半額、3人目以降を無料としている。また市内の保育所に入所する第3子については3歳未満の保育料を半額とするというように、子どもの多い世帯については負担を少なくすることを行っている。また、児童手当についても子どもさんの多い世帯については、3人目以降は15,000円といったように手当に差をつけるような形で実施している。(健康福祉部長)

A : 旧加茂町時代に3人目が生まれると10万円をお祝い金として支給する事業を行っていたことがあった。現在、雲南市としては子育てにお金がかからないようにする施策を進めているところである。現在行っている小学校までの子どもの医療費の無料化については、将来は中学校までの子どもに拡充しようと考えている。要は他自治体と比べて子育て費用が安いと皆さんに受け止めていただけるような施策を進めている。費用のかからない環境の充実を目指している。(市長)